

## マリガヤハウスでのインターンを終えて 江藤 由花子

はじめまして。昨年夏、マリガヤハウスにて6週間インターンさせていただきました、慶應義塾大学1年生の江頭由花子と申します。

私はこのインターンの参加させていただき、初めてJFC問題というものを耳にしました。日頃、日本で生活をしていて確かによく周りでフィリピン人を見かけたり、世界史の授業でフィリピンが一時日本の植民地化であったということを知ったりして結構日本と関わりの深い国であるのだなという認識は持っていたのですがその関係が深い故にこういった問題が生じているとは思いませんでした。そして日本人が原因となっている問題にもかかわらずそれを知らない自分を恥じました。JFCのためになにかできることをしたい、そのような思いでインターンをさせていただきました。

最初の1週目、国籍申請に必要な書類を翻訳させていただいたのですが、その中にJFCの母親のこれまでの人生について書かれたものがありました。話の深刻さに正直、大変複雑な気持ちになりました。ただこういった自分の行っている翻訳一つ一つがJFCの国籍取得に近づく一歩となると、しっかり丁寧に頑張ろうという気持ちになることができました。

インターン後半よりJFCの国籍申請費用を集めることを目的にファンドレイジングを始めました。ファンドレイジングサイトのチャレンジとしてJFCに栄養ある食事を提供するというのを掲げ、どうすれば栄養をしっかりとってもらえるかということを試行錯誤しました。この活動を応援してくださった方が数人寄付をしてくださいましたが、期間も短かったが故に目標金額には達成しませんでした。志半ばで終わることになってしまったのですが、次のインターン生が引き継いでくださり、大変嬉しく、そして感謝の気持ちでいっぱいです。

インターン最後の週、総まとめとしてJFCを対象にワークショップを開かせていただきました。日本国籍を取得し、日本に来ること自体が目的化されがちであると聞き、自分らしい将来の夢を持ち、実現させてほしいという思いから”Imagine Your Future”というテーマのもと、なにを将来やりたいのかということ真剣に考えてもらいました。最後には皆、それぞれ立派な夢とそれを叶えるためにこれからどうするかということ語ってくれ、自分もこのまま大学生活をゆるゆると過ごしてはいけないと感化されました。

他にも様々な経験をさせていただいたのですが、どれも自分の今までの価値観を大きく変える貴重な経験であり、こちらでインターンができて、そしてJFCと出会うことができ本当に良かったと思っています。

JFC問題を解決していく上で様々な手段があると思いますが、現在まだ学生である私にとってできることは大変限られています。ただ、JFCと実際にふれあい、彼らの抱えるものを少なからず知った私としてできることは多くの人に彼らの存在を知ってもらうことだと思っています。インターンを終えて、日本に帰ってきたこの半年間、高校生や大学生、社会人と多くの人前で何度も自分のインターン経験について話させていただきました。その度にみんなJFC問題を知り、驚きの声をあげます。そして興味を持ってくれどンドン質問をしてくれます。こうして認知度を広げ、問題意識を持ってくれる人を少しでも増やすことで今後は貢献できればと思っています。

